

国語科学習指導案

四年 組生活白書を作ろう

(小学校 第4学年)

神奈川県立総合教育センター 池田 君枝



学習指導要領の改訂においては、国語科では、言葉で伝え合う能力、特に論理的に意見を述べる能力の育成が重視され、児童が相手意識や目的意識をもって活動する工夫が必要であるとされています。

そこで、4年生が生活白書を書く单元を使って、読み手は「同じ中学校区の他の小学校の同級生」、書く内容は「自分たちの日常生活に対する疑問点を調べて分かったことと考えたこと」と設定して、その具現化への一例を考えてみました。その際、報告する文章が書けたという満足感を全員が味わえるようにするため、グループ内での学び合いの場を設定しました。

神奈川県立総合教育センター

小学校 国語科学習指導案

1. 学 年 第4学年

2. 単 元 名 四年 組生活白書を作ろう

3. 単元について

本単元では、自分たちの日常生活を見直して疑問に思うことを調べ、調べたことや分かったことを報告する文章を書いて生活白書としてまとめるという活動をする。この活動を通して、報告文の基本的な書き方を知る。そして、報告文においても、「事柄ごとに分けて書く。」「段落と段落の続き方に注意して書く。」「段落の始めは改行して書く。」といった、3年生のときから繰り返し学習している内容が大切であることを実感し、身に付けられるようにすることをねらっている。

読み手は、同じ中学校区内の小学4年生である。将来同じ中学校に入学して一緒に生活することになる友達と、生活の様子や自分たちの考えを伝え合うことは、4年生の児童にとって興味深いことであり、より広い視野で自分たちの生活を見直すことができるのではないかと考える。さらに、「他校の友達にちゃんと伝えるように、分かりやすい報告文を書きたい。」という思いに支えられて、最後まで意欲的に学習を進めることが期待できる。

展開の工夫としては、グループの友達と読み合って、間違いや分かりにくいところを書き直す活動を取り入れた。児童一人ひとりが、報告する文章の基本的な書き方を体験し、書けたという満足感を味わって、その後の書く活動や発表活動につなげることができるようにするためである。

白書の仕上げ方には、絵や吹き出し等をふんだんに使って視覚的に楽しくまとめる方法も考えられるが、ここでは、段落分けして書く表記法を身に付けることもねらいの一つにあるため、マス目のある用紙に文章で表すこととした。

4. 教 材 生活を見つめて～四年一組生活白書 光村図書4年下

5. 単元目標 伝えたいことを読み手に分かりやすく伝えるための文章の一つとして、報告文の基本的な形式を知り、その良さに気づく。
調べて分かったことと考えたことを区別して、文章の組み立てに気をつけながら報告文を書くことができる。
漢字・語句・符号を適切に使用すること、及び、文体・改行など文章を書く際の基本的な技能の習熟を図る。

6. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度〔関〕	書く能力〔書〕	言語についての知識・理解・技能〔言〕
<p>ア 調べたことを報告する文章を書くことに興味を持ち、調べたり書いたりしようとする。</p> <p>イ 調べたことや分かったこと、考えたことを伝えるために、事柄を選択したり段落相互の関係を工夫したりしようとする。</p> <p>ウ 報告文として適切な表現となっているか確かめたり、よいところを見付けたりしようとする。</p>	<p>ア 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている。</p> <p>イ 調べたことや分かったこと、考えたことが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている。</p> <p>ウ 文章を読み返して間違いなどを正している。</p>	<p>ア 文章全体における段落の役割を理解し、改行して書いている。</p> <p>イ 文章の敬体と常体に注意して書いている。</p> <p>ウ 漢字を使うとともに、表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べている。</p> <p>エ 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。</p>

7. 単元の指導と評価計画 (17時間扱い)

時	学習のねらい ・主な学習活動	指導のポイント	評価規準		
			関	書	言
1	<p>学習のめあてをつかみ、学習活動の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活白書について知る。 教材文を読む。 学習計画を立てる。 <p>報告文の基本的な書き方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項をもとに、報告文で大切なことについて話し合う。 報告文の組み立てを図にまとめる。 <p>新出漢字について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み方や書き順を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味を持って取り組めるように白書の意味をおさえる。 自分たちの生活を振り返ることの意義を十分に理解させ、調べ活動への興味関心を高める。 単元の学習の流れを明確にする。 各種の白書や児童研究作品集等を用意しておく。 今回の伝達方法として、報告文が有効であることをおさえる。 書くことに関する4月からの学習記録を提示する。 既習事項と教材文を手がかりに、児童の意見を大切にしながらまとめる。 作成した図は、毎時間掲示するなどして、活用する。 	ア		ウ
2	<p>自分たちの日常生活を見直し、調べる内容を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活を振り返って話題を出し合う。 内容ごとに整理して、調べる事柄を決める。 グループを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手校と内容をそろえるようなことはせず、自由な視点を大切にする。 意見が少ない場合は、日頃の「1分間スピーチ」「日記」「詩を書こう」等の活動や、児童のつぶやきなどを手がかりにしてキーワードを提示し、そこから発想を広げられるようにする。 調べる方法も合わせて考えさせ、調査可能な内容に絞れるようにする。 他教科や総合的な学習の時間との関連で、使用できそうなものがある場合には、それらも利用できるようにする。 内容に応じて、3～5人のグループ編成にする。 	ア		
3 4	<p>アンケートの作り方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートを作るときの要点について話し合う。 <p>グループ毎に調べたい内容を整理し、調べ方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに話し合い、調べたい内容を具体的に決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で使われたアンケート用紙を用意する。 これまでの調べ学習や自分がアンケートを受けた経験を想起しながら、考えられるようにする。 要点をまとめたものは、模造紙等に記録して、以後の学習に活用できるようにする。 第1時にまとめた組み立て図を活用する。 分担した内容が意味段落に当たることをおさえる。 できたアンケートは、必ずグループ内で 	ア イ	ア	

	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの内容に合った調べ方を決める。 内容ごとに調べる人を決める。 アンケート用紙を作成する。 作ったアンケートを見直す。 集計用紙を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 項目を検討させ、適切な調査活動ができるようにする。 集計用紙も合わせて作成すると良いことに気づかせる。 			
5 8	<ul style="list-style-type: none"> 調査活動をする。 各自の分担に従って調べる。 結果を、表やグラフにまとめる。 表やグラフから分かったことや考えたことをメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフは、そのまま印刷原稿になるように、白黒で仕上げることを確認しておく。 	アイ	ア	
9 10 本時 12	<ul style="list-style-type: none"> 各自が調べて分かったことや考えたことを文章に表す。 報告する文章の基本的な書き方を確認する。 グループ内で、分かったことや考えたことを報告し合う。 分担に従って下書きを書く。 <p>文章を練り直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み返すときに気をつけることを、学級で話し合う。 自分が書いた文章を読み返して直す。 グループ内の友達の文章を読んで、よりよい表現を考える。 <p>グループごとに報告文にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 清書をする。 グループで一つの報告文にまとめ、仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1時にまとめた組み立て図を活用する。 「調べたこと」「調べた方法」「調べて分かったこと」「考えたこと」のまとめで、順序よく書くことをおさえる。 口頭で報告し合うことで、伝えたいことを明らかにするとともに、報告文の全体像をつかませる。 分担した段落の文章を書くのは、個人作業とする。 既習事項と教材文を手がかりに、児童の意見を大切にしながら読み返しの視点をまとめ、各自の手元に置いていつでも確認できるようにする。 互いに書き手を尊重しながら添削し合えるように、心構えも併せて確認しておく。 マス目のある清書用紙を用意する。 必要な表やグラフを加えて、全体の体裁を整えられるようにする。 仕上がった報告文は、児童数分印刷して配布する。 	イ ウ	ア イ ウ エ	
13 14	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの報告文を読み合って感想を出し合う。 他のグループの報告文を読む。 読んだ感想を感想用紙に書き、交換し合う。 感想用紙に書かれたことをもとに、自分たちが作った生活白書について話し合う。 「四年 組生活白書」として仕上げる。 単元学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことの内容に関する感想の記入と、報告文の書き方に関する評価の両方ができるような感想用紙を用意する。 他のグループの報告文の良いところを認め合い、書き上げた満足感を共有できるようにする。 話し合われた内容は、整理して記録保管し、以後の学習に活用できるようにする。 各自が自分の育ちを自覚できるように、振り返りシートを用意する。 	ウ		
15 16	<ul style="list-style-type: none"> 近隣校の友達と生活白書を読み合って、感想を出し合う。 近隣校の児童が作った生活白書を読む。 読んだ感想を話し合う。 感想を、共通点や相違点、今後参考 	<ul style="list-style-type: none"> 添削をするような読み方にならないようにする。 感想をまとめたものを相手校に送る。 	ウ		

	にしたい点等にまとめる。			
17	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校から送られてきた感想を読む。 ・二つの生活白書を比べた感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活白書と感想、相手校の生活白書とその感想、の4点は、身近なところに保管して、好きなときに読み返したり、学習に活用したりできるようにする。 ・話し合った内容は、機会を捉えて家庭等に紹介する。 	ウ	

8 . 本時の指導 (第10時 / 17時間)

(1) 本時の目標 具体例を用いて話し合うことにより、分かりやすい報告文の書き方に気づく。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の か か わ り	評 価
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 教材文を音読する。</p> <p>3 読み返すときに気をつけることについて話し合う。 気がついたことをノートに書く。</p>	<p>単元における本時の学習の位置づけを明確にし、読み返しの視点を設定する時間であることをおさえる。</p> <p>報告文の形式や文体について理解を深められるように、毎時間、授業の始めに音読の時間を設ける。</p> <p>下書きの一つを教材にして、実際に添削作業を進めながら、要点をまとめていく。 事前に、書いた本人の許諾をとり、紹介の仕方に配慮する。 まず始めに、この文章のよいところを見つけさせ、書き手の努力を認められるようにする。 次に、さらに伝わりやすい文章にするために力を合わせようという姿勢で、修正点について話し合いが行われるようにする。 書くことや言語事項に関する4月からの学習記録を提示しておく。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 事柄ごとに段落に分けて書くことや段落相互の関係を考えて書くことの大切さを理解して、書くときに生かそうとしている。 * ノートの記載や発言から</p> <p>【書く能力】 既習の言語事項について正しく理解し、具体的な場面に当てはめて、使用している。 * ノートの記載や発言から</p>
<p style="text-align: center;">予想される児童の言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「調べたこと」「調べた方法」「調べて分かったこと」「考えたこと」の順に書いてあるね。 ・それぞれの段落で、いいことが伝わってくるように書けたかな。 ・へえー、私たちのクラスの人って、こうなんだ。 ・生活をよりよくするために、こんなことを考えたんだね。いい考えだね。 ・ちゃんと、段落ごとに次の行に書いているよ。 ・1字下げで書くのを忘れなかったね。 ・ここも段落を変えた方がいいと思います。 ・ここは数字を使って具体的に書いてよ。 ・接続語も使って書いたのが、いいと思います。 ・この漢字はもう習ったよ。もっと習った漢字を使うといいよ。 ・「、」や「。」を忘れないようにしなくちゃね。 ・始めの方は「です。」なのに、ここから急に「だった。」になってるよ。同じいい方に直そう。 		

<p>発表し合いながら、「読み返すときに気をつけること」の形にまとめる。</p>	<p>書き手を尊重し、もとの文章のよさを壊さないように留意しながら添削するようにする。 話し合いを通して、読み手側の視点に気づけるようにする。 まとめたものは授業後に印刷し、次時の資料として配布する。</p>	
<p>4 この次の時間は、グループごとに文章の読み返しをすることを確認する。</p>	<p>よりよい文に仕上げようという意欲を持つことができるようにする。</p>	

所属 情報交流課

氏名 池田君枝